

原口典之 | 新作個展

「*Double Tone*」

会期： 2012年9月15日(土曜日)～10月6日(土曜日)

開廊： 火曜日～土曜日・12:00～19:00

休廊： 日曜日・月曜日・祝祭日

会場： Miyake Fine Art ミヤケファインアート

東京都江東区清澄1-3-2-5F

オープニングレセプション：

2012年9月15日(土曜日)18:00～20:00



ミヤケファインアートでは原口典之の新作による個展「Double Tone」を開催いたします。今年、1月にNYで開催されたMcCaffrey Fine Artでの個展に続き、同月東京のEspace Louis Vuittonで開催された「Cosmic Travelers」展、2月にLAで開催されたBlum & Poeにおける「Requiem for the sun: The Art of Mono-ha」展。現在、新潟市で開催中の「水と土の芸術祭」、11月にニューヨーク近代美術館で開催される「Tokyo1955-70」展など、今なお国内外で精力的に活動を続ける原口典之の新たな試みをご紹介します。

異なる二つの物性を作品の中で構成する、あるいはひとつの物質を対象化して作品化するという原口の仕事は70年代「オイルプール」のシリーズでひとつの完成を見ました。鉄の水盤に漆黒の廃油というシンプルな二つの物質によって構成された作品は原口の名を世界に知らしめ、以降も、原口は一貫した姿勢で石、ガラス、アルミニウム、ゴム、ポリウレタンなど様々な素材を作品に取り込んできました。色彩は抑制され、周囲の空間、風景と同化しながらも存在感を発揮する、それが原口作品のこれまでのアプローチでした。

本展では2mの黒御影を床に置いた立体と、100年前の農家で発見した木桶にオイルを張った作品、さらに異なる色彩のポリウレタンを使った平面作品で構成されます。今回発表する作品は、これまでと同様の構造を踏襲しながらも明らかに「色彩」が見て取れるものとなっており、平面作品に至っては「絵画的性」さえ感じられます。果たして、これが原口にとっての新たな脱皮なのか、あるいは原点回帰なのか。変様を続ける原口典之の今を示した今回の展覧会を、私どもは「Mono Tone」ではなく「Poly Tone」でもない、「Double Tone」と題しました。

原口典之は1946年神奈川県横須賀市生まれ。日本大学芸術学部美術学科卒業。60年代後半から美術家としての活動を開始。1977年、ドイツのカッセルで5年ごとに開催される国際的な美術展「ドクメンタ6」に高松次郎とともに日本人作家として初めて選出。オイルプールを発表し、欧米中心の美術界に衝撃を与えました。その後、パリ市立近代美術館での「第10回パリ青年ビエンナーレ」に参加。1978年には、デュッセルドルフのGalerie Alfred Schmelaにて、海外で初の個展。2001年、ミュンヘンのレンバッハハウス美術館にて個展、2007年ハンブルグのクンストハーレにてマレーヴィッチへのオマージュ展「Das Schwarze Quadrat. Hommage en Malewitsch」など、海外の大規模な展覧会にて高い評価を博しました。2009年、横浜BankART1929・Studio NYKにて、国内初となる新作を含む大規模な回顧展「Noriyuki Haraguchi: Society and Matter (原口典之 社会と物質)」を開催し、その存在を改めて国内外に知らしめました。最近では、ロンドンのテート・モダンが原口作品の収蔵を決定しています。

本展はミヤケファインアートでの原口典之の新作による、初めての個展となります。ぜひこの機会にご高覧くださいませよう、お願い申し上げます。

MIYAKE FINE ART

お問い合わせ

Tel: 03-5646-2355

Mail: info@miyakefineart.com

担当：楠(クスノキ)

株式会社 ミヤケファインアート

1-3-2 Kiyosumi, 5th Floor, Koto-ku, Tokyo 135-0024 Japan

135-0024 東京都江東区清澄1-3-2-5F

Telephone +81-3-5646-2355 / Facsimile +81-3-5646-2356

info@miyakefineart.com / www.miyakefineart.com